風力発電の低周波被害について(h31.3/6)

H.23年11月末に谷口さんから悲鳴のような被害の訴えの電話をもらってから7年余りがたった。11月から12月には季節風が吹き始め、空気が乾燥して冬の気配に一変する。同時に、風力発電の低周波も「ドンッ」と脳髄にまで響くようになる。

息をするにも苦しい気持ち悪い空気、耳の奥がシーンッと鳴りだす。季節の変わり目は、生身の人間、低周波被害者には相当な圧力を加えて襲い掛かる。

私は『風力発電の被害』に書いたように、最初は何のことだか分からなかった。

谷口さんが何でそこまで真剣に怒って、顔色を変えてまで被害症状を訴えるのか分からなかった。

しかし長年の付き合いがあって、選挙参謀でもあったので何度も役場には電話したし、一般質問で議会に訴えることもしてきた。

由良町役場は全く受け付けなかった。

「どこか体調が悪かったら病院へ行け」

「役場へは言うてくるな」

「もう電話してくるな」

こんな言葉を電話で何度も聞くことになった。谷口さんからは何度も催促の電話が来た。

定例議会は年に4回ある。3月、6月、9月、12月に一週間ほど議案審議などを行うことになっている。私の8年間を振り返ると、私の懲罰議会以外は、すべて形だけのものだった。

「これ悪いな」と思える案件ほど全く受け付けることはなかった。

例えば白崎海岸のトイレの改修工事に2700万円が計上されていて「何でトイレ一つに直すのに2700万円もいるのか？この見積もりはおかしい」と指摘しても、「特殊なトイレだから必要な妥当な金額だ」と言って取り合わない。他の9人の議員は全く知らん顔をしている。

異常としか言いようのない議案はたくさんあった。

私一人が「これおかしいでしょう」と主張していました。

その第一発目が風力発電の低周波被害でした。

最初から被害込みで、対応は予定され仕組まれていました。

由良町の風力発電の建設までに、近くの下津町や広川町ではすでに被害が確認されていたからでした。

谷口さんが当初から東伊豆町などの自称被害者たちと連絡を取り合い、野鳥の会や共産党などの環境運動家たちが出入りしていたことも、今から思えば予定されたパターンでした。

その頃、汐見先生はH.19年に由良町阿戸地区の旅館で勉強会を開いたり、広川町の風力被害の様子を『左脳受容説』に表わすなど最後の力をふり絞っていた時でした。

私はほんの一瞬だけ、汐見先生の謦咳に触れて「被害者たちの話を聞いてやれ」と励まされていました。

窪田泰さんは2度、わが家を訪ねてくれました。白浜町の風力中止の時には、口下手な私に代わって、大変な協力をいただきました。

私は、H.24年から、すぐに風力関係者たちから排除されていました。彼らの攻撃対象にもなっていました。

窪田さんの悪口を散々聞かされていたので、「アレッ」と自分の順番になったことを驚いたものでした。汐見先生も散々でした。由良町阿戸地区ではボロクソでした。もちろん畑地区でも。

ですから汐見先生や窪田さんの悪口、雑言を繰り返して、排除する人たちが身近にいました。それも地域の人々を信用させる力のある人が吹聴していることに気が付いていました。

やがて私の番が来るとは、初めは全く気付くこともなかったのです。

私が排除されていることに気が付いたのは、H.24.2/25日の畑地区の事後説明会の時でした。私が風力にかかわってから3ケ月も経っていませんでした。

谷口さんは日本気象協会の魚崎という人に、被害の訴えを感情をこめてぶつけていました。私のページに発言録音をアップしています。

しかし、この時には畑地区の会館に集まった30名ほどの被害者たちは、私を無視し、よそよそしい態度をとって距離を置いていました。

その時、御坊保健所の吉田課員や、窪田さんが用意た大量のアンケート用紙は、ついに配布することも知らせることもありませんでした。それは白紙、未記入のまま役場に届けられて破棄されました。

後日、H.26年に東大生が実施した畑地区のすべての住人317名に対して行ったアンケート調査でも不思議な出来事がたくさんありました。

まず私には一切何も知らさない。秘密裏に行われました。

聞いた話ですが、由良町役場にも事前、事後の報告が行われたということでした。

しかしインターネットなどにも全く報告書は見られません。私のページに18.89％の人が被害症状があると答えたという結果報告書だけです。本当はあちこちにコピーがあるらしいのですが、誰一人として、私に見せる人はいません。

「由良さんに見せると、すぐにホームページに載せて公にするやろ。怖い話や」というのです。

しかし、その人たちの隠ぺいと、「ワシらは情報を持っている」という歪んだ黒い笑いほど私をいらだたせるものはありません。

彼らは私にそう告げることが面白くてならないのです。

風力発電の被害には、常にこういったドス黒い陰謀、企みが付きまといます。

被害者を目ざとく見つけ、そしてオチョクッテ弾圧するのです。私たち被害者は、まるで珍獣でした。

風力発電の被害地域には、統計的にすでに必ず被害者がいることが分かっているのです。

東伊豆町で風力被害が明らかになった時、環境運動家たちは30数人も名を連ねてメーリングリストなる人脈を作ってそれぞれがとんでもない暴走を始めたということでした。

東伊豆町では、20軒ほどの被害者たちが自宅を捨てて逃げ出しました。環境運動家たちは面白くてしょうがなかったのです。それに味をしめて全国で同じように被害者狩りを行うことになったのです。

東伊豆町では当初、大真面目に被害者たちが力を合わせて風力事業の公害を訴えていました。被害症状や低周波被害のひどさを訴えるレポートがインターネットにあふれていました。それが10年たった今、何も見当たらない。

被害者たちはアホらしくなって、引っ越してしまったのです。環境運動家たちの大勝利でした。東伊豆町役場に電話すると「被害はありません」「聞いたこともありません」と丁寧に答えてくれます。それらの地域は今、ドライブコース、「風を切って走ろう」という観光の名所になっているそうです。

全国にはたくさんの風力反対運動が起こっていますが、まだまだ「考える会」イムズに支配されています。彼らはタダのオチョクリであり、時間稼ぎを目的としているだけでした。環境省の受け売りの言葉を繰り返すだけ。彼らの正体を暴くには、「今、たくさんの風力被害者がいるんだから、なぜ助けないのか？」と聞いてやればよい。

彼らは必ず「被害は確認されていない」と繰り返して本音を表す。

それは更年期障害だとか。

ちがうよ。風車が出来たから風車の有害な低周波空気振動で苦しむようになったんだ。

今、私の存在、活動してきたことが排除されている。先日の議員選挙でそれが明らかに示された。

私は与えられた役回りを演じただけだったが、地域社会の人間模様をこれでもか、と見せられて、風力被害を訴えることのアホらしさを選挙という舞台で明らかにした。

私の60票という落選は決してムダではなかった。

風力被害を受けて苦しみながら亡くなった人たち。

今も風力に苦しみながら人生を破壊されている人々に対して、地域の人々がどう思っているのか、地域社会の全員が確認したのだ。

選挙という間違いのない判定を社会が下したのだ。

「被害者はいない」「関係ない」という嫌悪に私は脆くも崩れ去った。

大勢に対して、なすすべもなかった。

一人の人間として、規格に外れていたんだろう。

では畑地区の谷口さんらのような風力被害者は何だったんだろう。

善とか、悪とかではなく、「関係ない」人だったのだ。

恐ろしい発見だった。こんな平和な日本で、風力被害を訴えて苦しみながら死んでいった人たちがいる。

「関係ない」「もう聞きたくない」と人々は言う。

「人」ではない、私はそう感じているが、皆さんはどう思うだろうか。伊豆の人たちはなぜ自宅を捨ててどこかへ引っ越したのか。そこにいたら死んでしまうからよ。

すべて本当に起こったことであるのは、これまで私が書いてきたとおりであるし、発言してきました。

私は言ってはならないことを言ってしまったのか。2/7日のページにアップした被害者たちの証言のように、「私たちはもういいんです」と言って、終わりになるんだろうか。

「空気」は選挙の時に十分に味わった。

我家の家伝には、「由良をいずるもの、あるいは由良に帰る、云々」という文があります。その時の都合により、由良を出たり帰ったりを繰り返していたようです。人が生きていく、ってのはいつの時代でも大変よ。家柄を誇るのが我家の悪い癖だとも伝え聞いている。しばらくは静かにしゃべっていよう、っと。